

# 令和3年度 看護実践研究指導事業報告

## I. 本事業の目的と実施概要

## 本事業の目的と実施概要

### I. 本事業の目的

平成13年度から開始した本事業も今年度で21年目を迎え、引き続き、県内看護職が大学の知的資源を利用して自己学習や業務改善ができるようにすることを目指し、看護の実践研究指導・研修の事業として取り組んだ。事業の実施に際しては、単に研修や指導を行うのではなく、県内看護職の現状を把握して、現場の実態に即応した適切な指導・研修の方法を模索しながら行うこととし、現職者自身による問題解決を促進していくことを重視している。

他方、大学としては、これらの活動をする一方で、今後の学部・大学院教育の充実を図り、特色ある活動を導くことを念頭においている。

したがって、本事業はその目的において下記のような特徴を備えている。

- ・県内看護職が大学の知的資源を利用して自己研鑽や日常の業務改善ができるようにすることを目指す看護の実践研究に関する事業である。
- ・県立大学であることを強く認識し、看護学の高等教育機関の社会的使命や在り方を踏まえて県内看護職の質の向上を実現する一つの手段として取り組む事業である。
- ・単に知識伝達型の一方通行的な講義で行うのではなく、大学教員が現場に出向いて県内看護職の現状を把握することを基本とする、県内看護職やその実践の実態に即応した適切な指導・研修の方法を開発する、県内看護職自身の主体的問題解決を促進する、などを重視する事業である。
- ・看護学科や大学院看護学研究科の教育研究環境の一層の充実を図り、本学で育成した人材の県内施設への就業と定着しやすい環境づくりを目指して取り組む事業である。

### II. 本事業の研修方法

研修方法は、教員が対象に合わせて創出することとしているが、①教員が看護職者の現場に出向いて現状を把握し、②看護職者や看護実践の実態に応じた指導・研修方法を開発しながら取り組むもので、③看護職者自身の主体的な問題解決を促すことを重視してきている。

また、看護職者の主体的な実践研究の実施を奨励すること、岐阜県という広範な地域を視野に入れてケアサービスの質向上を目指すこと、課題解決に向けた方策を研修受講者同士が話し合っ創出すること、少人数配置など研修機会が得られがたい看護職者を対象にした研修を企画・実施すること、研修機会を通じた他施設との交流や看護職者同士のネットワークづくり等にも留意してきている。

したがって、本事業の研修方法の要件を整理すると以下ようになる。

- ・県内看護職が日ごろ実施している看護実践活動の実態と課題を確認し、彼らが提供する看護実践の質向上を図る上で有効であるとして大学教員が企画した研修である。
- ・特定施設や特定地域に限定することなく、提起した課題に関する研修は、県内全域の状況に対して責任を持って企画することを基本とした研修である。
- ・専門職である県内看護職に対して、自己の技術や実践方法の改善・充実について研究的取り組みを行う看護実践研究の実施を大学として奨励することを手段としつつ、主体的専門職者育成を前提にして企画した研修である。

### III. 今年度事業の実施

本事業には、大学と岐阜県内の看護実践現場の看護職者との連携や組織的関係を強化するという観点から、看護研究センターの教員が本事業の全体的な調整や報告書の取りまとめを担当している。

例年同様、年度当初の4月に学内から事業課題の募集を行った。今年度は「利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援」「地域包括ケアを推進するマネジメント能力向上のための研修」「専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会」「養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会」「地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会」「看護実践研究会への研究支援」の計6つの継続事業課題が申請され、今年度から取り組む新規の事業課題の申請はなかった(表1)。このうちの「地域包括ケアを推進するマネジメント能力向上のための研修」は前年度の「看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援」が事業課題名を変更したものである。

表1 令和3年度看護実践研究指導事業の実施一覧

No.	開始年度	事業課題名	担当者
0301	平成24年度 (10年目)	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	地域基礎看護学領域： 藤澤まこと、加藤由香里、柴田万智子、 黒江ゆり子、杉野緑 機能看護学領域：橋本麻由里、田辺満子 岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課：若原明美
0302	平成27年度 (7年目)	地域包括ケアを推進するマネジメント能力向上のための研修	機能看護学領域： 米増直美、橋本麻由里、古澤幸江、 宗宮真理子、安田みき、田辺満子 看護研究センター：長屋由美
0303	平成28年度 (6年目)	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	看護研究センター：奥村美奈子 成熟期看護学領域：布施恵子、船橋眞子 地域基礎看護学領域：藤澤まこと、柴田万智子 育成期看護学領域：岡永真由美、茂本咲子 機能看護学領域：橋本麻由里
0304	平成28年度 (6年目)	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	育成期看護学領域：亀山智加枝 機能看護学領域：松本訓枝
0305	令和元年度 (3年目)	地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会	地域基礎看護学領域： 大井靖子、吉村隆、堀里奈、岡本美和、 山田洋子、松下光子、森仁実、北山三津子 看護研究センター：大川眞智子
0306	令和元年度 (3年目)	看護実践研究会への研究支援	看護研究センター： 大川眞智子、奥村美奈子、長屋由美、小森春佳 地域基礎看護学領域：松下光子

#### IV. 今年度事業の運営

今年度の事業運営にあたっての年間スケジュールを表2に示す。

前年度末の3月の教員会議で今年度の事業課題募集について資料を配布して説明し、事業課題の申請を開始し、申請の締め切りは例年同様、年度が替わった4月26日(月)正午とした。申請された事業課題の応募様式について看護研究センター内で確認し、5月12日(水)17時から実習室2で開催した第1回代表者等会議(表3)で今年度の事業計画を応募様式とは別に準備してもらった事業計画の説明資料をもとに意見交換を行った。その際に看護研究センターから出された事業計画に関する不明点等についての質疑応答も行い、さらに本事業の年間計画と予算執行等の留意事項、ホームページでの研修会の開催案内と報告のお願い、研修受講者への修了証の交付手続き、報告書の作成と原稿の分量等のお願いについて代表者に対して伝え、センターへの要望の有無を確認している。看護実践研究指導事業は共同研究事業と異なり、共同研究報告と討論の会のような事業の進捗や成果について共有する機会が無い場合、この代表者等会議は事業課題の代表者とセンターで今年度の事業を進める上で必要な事項等を共有する場として開催している。

第1回代表者等会議の翌日に第1回看護研究センター運営委員会が開催されて申請された事業課題の内容と年度計画および必要な予算について審議され、委員会での承認後に事業課題は開始となる。ただし、予算執行は財務会計システムへの予算額、代表者と会計責任者への執行権限付与などの登録作業が必要となるので、委員会後に事務局総務課へ登録作業を看護研究センターから依頼し、登録作業完了後に執行が可能となっている。

例年、12月に第2回代表者等会議を開催し、事業課題の進捗状況について代表者から報告してもらい、意見交換を行うとともに年度末に向けての報告書作成や自己点検評価等の依頼を行い、代表者と

センター間で情報を共有してきた。今年度も12月9日（木）に予定していたが、12月に研修を開催する事業課題が複数あって準備等で忙しいことから中間報告を一堂に会して共有することの必要性について看護研究センターで再検討した結果、看護研究センターとして進捗状況を把握しておけば十分であることから中間報告を様式に沿って作成し、メールで提出してもらうことにして第2回代表者等会議は開催しないことにした。メールでの提出期限は12月13日（月）正午とした。

報告書原稿、代表者による自己点検評価、事業で関与した看護職者（個別訪問面接研修、集合研修参加、ワークショップ参加等）が所属する施設の一覧表の提出期限は2022年2月24日（木）正午とし、事前に看護研究センター事務局から各事業課題の代表者に配布したUSBメモリにそれぞれのファイルを保存後、そのUSBメモリを提出してもらった。提出後、看護研究センターで各ファイルを点検（大幅な修正がある場合は代表者に修正を依頼）した後、印刷業者に報告書原稿を入稿し、校正原稿の代表者による確認・修正を行った上で3月末に印刷・納品された。

表2 令和3年度看護実践研究指導事業の年間スケジュール

年月日時	実施内容
2021年3月18日（木）	教員会議で「看護実践研究指導事業の趣旨説明書」「令和3年度看護実践研究指導事業 年間計画（案）」「令和3年度用看護実践研究指導事業応募様式：新規用」「令和3年度用看護実践研究指導事業応募様式：継続用」を資料として配布し、令和3年度の事業課題募集について説明
2021年4月26日（月）	事業課題申請の締め切り
2021年5月12日（水）	第1回代表者等会議の開催
2021年5月13日（木）	第1回看護研究センター運営委員会で申請された事業課題の内容・年度計画と予算配分の審議・承認
2021年12月9日（木）	第2回代表者等会議の開催→中止
2021年12月13日（月）	事業課題の進捗状況の中間報告の提出締め切り
2022年2月18日（金）	消耗品・備品・図書の購入依頼書の起案締め切り
2022年2月24日（木）	報告書原稿、代表者による自己点検評価、事業で関与した看護職者（個別訪問面接研修、集合研修参加、ワークショップ参加等）が所属する施設の一覧表の提出期限（※代表者による自己点検評価の提出期限）
2022年3月31日（木）	報告書の完成・納品

表3 代表者等会議の開催概要

日程	参加者	内容
第1回 5月12日（水） 17:00～18:45	代表者：藤澤、米増、古澤、奥村、亀山、大井、大川 看護研究センター：北山、松下、長屋、会田	・前年度の予算執行状況報告 ・今年度の事業計画の説明と意見交換 ・その他

代表者による自己点検評価は大きく5つの観点から行っている。「実践の場に与えた影響」についてはさらに「①看護行動の変化」と「②看護職の行動・認識の変化」の2つに分け、「本学の教育・研究活動に与えた影響」についてはさらに「①教育活動への効果」と「②研究活動への発展」の2つに分け、残りは「本事業を通して捉えた看護職の生涯学習ニーズ」「本事業を実施する上で困難な点・課題」「今後の発展の方向性」の3つである。これらは看護研究センターでとりまとめを行い、センター会議で共有し、次年度の事業運営に活かしている。

本事業を実施する上での課題として挙がるのは、今後も活用することになるオンライン研修の効果的な実施方法の開発である。コロナ禍で取り組み始めたオンライン研修であるが、従来の個別訪問面接研修、集合研修と並ぶ研修方法となることが確実なので、本事業に限らず大学としてオンラインの方法論を確立していくことは急務である。また、現在、看護職の所属する機関は多種多様にあり、本事業における研修を実施するにあたってどのように研修対象者を集めるかが課題である。集合研修でも本学を会場とするか、地域で会場を確保するかで準備等が大幅に異なってくるので、事業課題の担当者だけの問題ではなく看護研究センターとしても検討していく必要がある。

今年度申請された6つの事業課題の予算は看護研究センター運営委員会と看護研究センターの意見等を受けて修正されたものが5月下旬頃までに各代表者から提出され、合計が1,316,705円であった。これに共通経費600,000円を加えた1,916,705円が本事業の当初予算である。事業課題ごとの予算配分は表4に示したとおりである。なお、本事業は予算の執行率100%を目指すものではないので、各事業課題の進捗状況等を踏まえて適切に執行することを第一とし、予算が残ることに関しては問題としていない。他方、当初予算をオーバーする場合は看護研究センターに申し出てもらい、看護研究センターに配分されている予備費の中から予算科目振替による支出を行い、不足分を補填している。

表4 令和3年度看護実践研究指導事業の予算

No.	代表者	事業課題名	予算
0301	藤澤まこと	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	360,616
0302	米増直美	地域包括ケアを推進するマネジメント能力向上のための研修	267,980
0303	奥村美奈子	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	47,880
0304	亀山智加枝	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	54,520
0305	大井靖子	地域の実態に即した子育て支援の充実にに向けた保健師の役割を考える研修会	128,519
0306	大川眞智子	看護実践研究学会への研究支援	456,200
小計			1,316,705
共通	修了証用上質紙		3,000
	報告書印刷費（抜刷分含む）		162,000
	人件費（66日×4500円）		297,000
	予備費		138,000
	小計		600,000
合計			1,916,705

今年度の各事業課題の研修等の実施状況を示したのが表5である。前年度はコロナ禍により研修を実施できた事業課題は3つだけであったが、今年度は「看護実践研究学会への研究支援」を除く5つのすべての事業課題で研修を実施できており、オンライン研修だけでなく従来からの個別訪問面接研修や集合研修も開催できていた。コロナ禍ではあったが、比較的少人数の研修が多く、利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援（0301）でも今年度は参加者の少ないアドバンス研修とエキスパートミーティングに限られていたことが幸いしている。参加者が多くなるベーシック研修、フォローアップ研修のオンライン研修化も今後の課題となる。

本事業による研修会・ワークショップ等の開催日時・場所については例年同様、必要に応じて本学ホームページで公開して情報発信に努めた。本事業の実績と成果を明示するために、平成21年度から本事業の報告書をPDF化し、本学ホームページにて公表してきたが、平成27年度から本事業の報告書を本学リポジトリで公開することを開始し、倫理面に関して十分に配慮するよう執筆要項に明示するとともにリポジトリでの公開にあたって事業課題ごとに3～5個のキーワードを付けてもらっている。キーワードは本報告書のⅡ章に掲載した各事業課題の報告の最初に掲載している。

看護職者が、生涯学習の一環で本事業の研修に参加（修了）したことを証明し、職場等にも提示できるように、平成25年度から事業代表者の要請に応じて、本事業の研修参加者に対して修了証や参加証（図1）を大学として発行することとしたが、令和3年度は3つの事業（0301、0302、0303）の研修会で修了証または参加証を発行した。

表5 事業別の研修等実施状況

No.	事業課題名	今年度の実施状況
0301	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	<p>アドバンス研修（3回）参加者10名</p> <p>第1回：2021年9月30日（木）14時～16時 Microsoft Teamsによるオンライン研修</p> <p>第2回：2021年10月28日（水）14時～16時 Microsoft Teamsによるオンライン研修</p> <p>第3回：2021年11月25日（水）14時～16時 集合研修（会場：岐阜県立看護大学）</p> <p>エキスパートミーティング 参加者11名 2021年12月13日（月）15時～17時 Zoomによるオンライン研修</p>
0302	地域包括ケアを推進するマネジメント能力向上のための研修	<p>個別面接研修（9回）</p> <p>2021年9月15日（水）午前、市立総合病院、参加者1名 2021年9月17日（金）午前、市立総合病院、参加者1名 2021年9月21日（火）午前、オンライン（Zoom）、参加者2名 2021年9月22日（水）午前、市立総合病院、参加者1名 2021年9月22日（水）午前、市立総合病院、参加者1名 2021年9月22日（水）午後、市立総合病院、参加者1名 2021年9月22日（水）午後、市立総合病院、参加者1名 2021年10月4日（月）午後、介護老人福祉施設、参加者1名 2021年10月11日（月）午後、市役所、参加者4名</p> <p>集合研修（3回）</p> <p>2021年11月6日（土）市立総合病院、参加者8名 2021年11月19日（金）市役所、参加者4名 2022年2月5日（土）オンライン（Zoom）、参加者9名</p>
0303	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	<p>研修会企画に関する検討会（4回）</p> <p>2021年7月28日（木）、9月27日（月）、11月19日（金）、 2022年1月18日（火）</p> <p>専門看護師資格5年目更新審査受審に向けた研修会（2回）</p> <p>第1回研修会：2021年7月8日（木）18時～20時 参加者3名、オンライン研修（Zoom）</p> <p>第2回研修会：2021年12月15日（水）18時～19時 参加者4名、オンライン研修（Zoom）</p> <p>「コロナ禍における専門看護師の活動と課題」研修会 2022年2月10日（木）18時～19時50分 参加者13名、オンライン研修（Zoom）</p>
0304	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	<p>第1回：2021年8月28日（土）13時20分～16時30分 テーマ「養護教諭のスキルアップとネットワークづくりを目指して」、参加者21名、Zoomによるオンライン研修</p> <p>第2回：2021年12月11日（土）13時20分～16時30分 テーマ「校種の異なる経験から養護教諭の在り方を考える」 参加者13名、岐阜県立看護大学での開催とZoomによるオンラインを併用したハイブリッド研修</p>

0305	地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会	子育て支援（母子保健）を担当する保健師の現状と実践活動上の課題の把握 東濃圏域の3市を対象とし、1市あたり保健師2名に対して2021年9月に聞き取り調査を実施、1市は対面形式、2市はZoomによるオンライン 子育て支援（母子保健）担当保健師を対象とした研修 2022年3月7日（月）13時30分～15時 Zoomによるオンライン研修
0306	看護実践研究学会への研究支援	令和2年度に支援を開始し、令和3年度も継続した研究課題（3題） 対象は病院（2施設）、社会福祉施設（1施設）の看護師6名 令和3年度に支援を開始した研究課題（2題） 対象は病院（2施設）の看護師4名、他職種4名 令和3年12月から「研究論文の投稿支援」を開始 年度末時点で1件の研究課題について投稿支援中

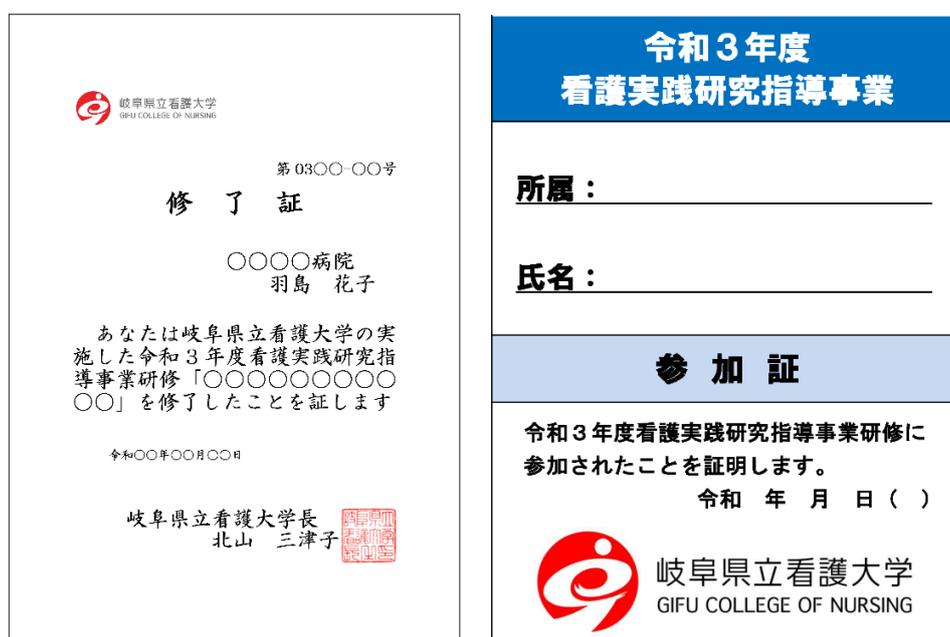


図1 看護実践研究指導事業の修了証（左）と参加証（右）

#### IV. FD 研修会の開催

これまでのFD研修会において、共同研究事業については平成28年度と令和元年度に「共同研究事業を発展させるためのあり方と方策」をテーマに、看護実践研究指導事業については平成29年度と30年度に「看護実践研究指導事業のこれから」をテーマに検討を積み重ねてきた。今年度は看護実践現場の変化をふまえて、岐阜県の看護の質向上に寄与するため何に取り組むか、共同研究事業及び看護実践研究指導事業をどのように展開するとよいか等、看護実践現場と本学の協働活動がどうあったらよいかについて検討する研修会を看護研究センターと教育能力開発委員会の共同で開催した。

FD研修会の概要は以下のとおりである。

【開催日時・方法】2022年3月9日（水）13:00～14:20 Microsoft Teamsによるオンライン  
【プログラム】

時間	内容
13:00～13:20	全体説明：研修会の趣旨および進行の説明、社会の状況と制度、医療・介護・福祉などの状況の変化、共同研究事業及び看護実践研究指導事業の変遷
13:20～14:20	グループ討議